

令和4年度 国立諫早青少年自然の家 ボランティア自主企画試行事業(シリーズ1)

秋分キャンプ ～まだまだ暑い日を楽しもう！～

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
〔期 日〕 令和4年9月23日(金)～25日(日) 2泊3日
〔活動場所〕 国立諫早青少年自然の家
〔参加者〕 小学4～6年生 計20名
(男性13名、女性7名)
〔担当職員〕 葛島 隆文、貞方 貴衣、稲原 諒馬

1) 事業の趣旨

2泊3日の中で仲間と協力することの大切さ、自然の竹を使い、日常とは違う体験を通して、失敗を恐れず何事にもチャレンジする精神や臨機応変に対応する力を育む。

2) 目指すゴール

主体的にクラフト活動に取り組み、資源の有効活用を考えること。

3) 研修プログラム

1日目	2日目	3日目
9月23日(金)	9月24日(土)	9月25日(日)
13:00 受付	6:30 起床・準備・朝食	6:30 起床
13:30 移動	[写真③]	7:00 朝食
14:00 アイスブレイク [写真①]	9:00 そうめん流し準備	8:00 掃除・片付け
15:00 テント設営 [写真②]	12:00 昼食	9:30 テント撤去
16:00 野外炊事(夕食)	13:00 そうめん流し準備	10:30 竹を使ったおもちゃ作り
19:30 シャワー・就寝準備	16:00 そうめん流し [写真④]	12:00 昼食
20:30 振り返り	18:00 たき火	13:00 おもちゃあそび・片付け [写真⑤]
21:00 就寝	19:30 シャワー・就寝準備	14:00 移動
	20:30 振り返り	14:30 振り返り
	21:00 就寝	[写真⑥]
		15:00 解散

4) 事業展開

① アイスブレイク



名前を覚えるゲームやじゃんけん等、仲間づくりを行いました。学年、性別に関係なく活動することができ、安心して活動に取り組むことができる雰囲気ができました。

③ 朝食



朝食作りではガスコンロを使って、魚を焼きました。普段調理をしない子供が多く、どのくらい焼き目をつけると良いか悩む場面も見られましたが、仲間の意見を聞きながら完成できました。

⑤ おもちゃあそび



そうめん流し台の竹を活用しながら、おもちゃを作りました。壊れることもありましたが、何回も補修しながら遊ぶことができました。

② テント設営



テント設営では、班ごとに一張りずつ協力して立てることができました。途中張り方がわからなくなっても、班で意見を出し合うことでチームとしての結束力を高めることができました。

④ そうめん流し



竹を半分に切断し、竹を組み合わせて流しそうめん台を作ることができました。初めてそうめん流しをする子供もいましたが、係を交代しながら楽しく食べることができました。

⑥ 振り返り



活動の振り返りでは、こころに残ったことを中心に班で共有しました。最後に全員でボランティアやスタッフと記念写真を撮影しキャンプを終えました。

5) 評価

①アンケート結果

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

②参加者の声（アンケートから一部抜粋）

- ・初めて流しそうめんができて良かった。
- ・協力しながらテントを設営したり、自炊したりできた。
- ・竹を切る活動は大変だったが、割れたときはうれしかった。
- ・自然に感謝したいと思った。

6) 成果と課題



①成果

- ・ボランティア同士が1日おきに反省や翌日のスケジュール確認を行ったことで、「見通しをもって進行できる」「意見を共有することで指導に一貫性を持てる」などの意見があった。
- ・新規ボランティア登録を行った学生も今回のキャンプに参加できたことで、次回のキャンプへの意欲を高め、活動につなげることができた。
- ・刃物を使用することが多かったが、安全管理に注意しながら活動を進めることができたため、大きな怪我はなかった。

②課題

- ・参加者が携帯電話を持ち込んで、保護者と連絡を取り合っていた。持ち物について二次案内で詳しく案内が必要である。
- ・夜の就寝を心配する声が多く、眠れない参加者がいた。
- ・発熱者がおり、こまめな検温の必要性を感じた。

7) SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	目標4 質の高い教育をみんなに 竹を使った体験学習により、試行錯誤を繰り返しながら主体性と実践力を養います。 目標15 陸の豊かさを守ろう 豊富な資源である竹を利用したモノづくりやおもちゃあそび体験を通じて、資源の有効活用について考えます。
--	---	---